

4

みんなが「分かる」、「できる」授業づくり取組事例 注意・集中の持続が難しい児童生徒への指導の工夫

取組事例①

注意・集中することの困難さ

場面・教科

各教科

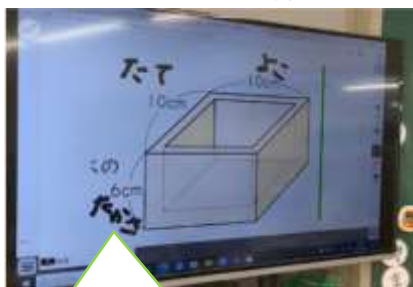
困難の背景として考えられること

- ・様々な刺激を受けて、次々と衝動的に行動してしまう。
- ・1つの部分に強く注目してしまい、次の活動や話に注意を移すことが苦手である。

授業における指導方法 の工夫のポイント

- ⑤ 時間の構造化
- ⑥ 焦点化
- ⑨ 視覚化
- ⑩ 感覚の活用
- ⑪ 共有化

○ 困難さを支援するICTの活用



情報を精選し、児童が必要な情報に注意を向けられるよう、ICTを活用した資料提示の工夫（焦点化、視覚化）

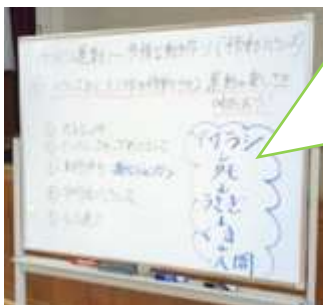


集中を持続して活動に取り組めるよう、ICTを活用し、児童が注目したい部分等を拡大して見られる工夫（視覚化、感覚の活用）



児童同士が関わり合い、学び合えるよう、スライドを共同編集して作成し、担当箇所を明確にする工夫（視覚化、共有化）

○ 全ての児童にとって分かりやすい授業づくり



見通しをもてるよう、1単位時間の授業の進め方等を提示し、児童が確認したり、理解したりできる工夫（時間の構造化、視覚化）



多様な感覚を使って理解を深められるよう、具体物を実際に見たり、触ったりするなど、児童の理解を深める工夫（感覚の活用）

期待される効果

- ・個別の困難さに応じてICTを活用したり、見通しをもたせたりすることにより、全ての児童が安心して学ぶことができる。

学習に集中して取り組むことが難しい

場面・教科

各教科

困難の背景として考えられること

- ・聴覚からの情報（言葉）が多く、授業の流れや活動内容に見通しをもちづらい。
- ・他の児童の様子が視界に入るなど、周囲の様子が気になる。

授業における指導方法の工夫のポイント

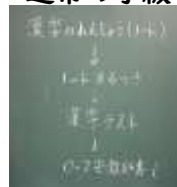
- ① 場の構造化
- ② 刺激量の調整
- ⑤ 時間の構造化
- ⑥ 焦点化
- ⑦ 展開の構造化
- ⑧ スモールステップ化
- ⑨ 視覚化

○ 時間・展開の構造化を通して見通しをもって活動に取り組めるようにする

学習内容の視覚化



通常の学級



時間の視覚化

活動時間に見通しをもてるよう取り組む時間を可視化する。（視覚化）



通常の学級



授業冒頭に内容や進め方を示す。
（時間の構造化、視覚化）
集中力を持続できるよう、授業展開にメリハリをつける。
（展開の構造化、スモールステップ化、焦点化）

特別支援教育の視点を通常の学級の指導に生かす

○ 学習環境の整備



特別支援学級

「江小スタンダード」（校内の共通ルール）
「必要なものをきれいに机の上に置いている」

掲示物や机の上に置くものを必要最小限に整理するなどの工夫をする。（刺激量の調整、場の構造化）

通常の学級



期待される効果

- ・学習活動や活動時間の見通しをもちやすい環境を整え、活動に集中できるようにすることで、主体的に学習活動に取り組むことができる。

集中力を持続させることが難しい

場面・教科

社会科、理科

困難の背景として考えられること

- ・学習内容の見通しがもてない。
- ・取り組むべきことが分からない。

授業における指導方法 の工夫のポイント

- ⑥ 焦点化
- ⑦ 展開の構造化
- ⑨ 視覚化
- ⑩ 感覚の活用

○ 授業スタイルのパターン化（社会科）

- ①前時までの復習（復習プリント又は宿題ノートの解答）
- ②本時の内容（教科書の音読）
- ③本時の内容（プリント：実施→解答）
- ④本時の内容（板書）
- ⑤本時の内容（プリント、ワーク等への取り組み）

休み時間のうちに、黒板に本時の課題を板書。生徒は、始業チャイム前から授業に向かう気持ちを整えられる。

毎回同じ授業の流れなので、見通しがもちやすい。
（焦点化、展開の構造化、視覚化）

○ 宿題ノートの活用（手作り問題集の作成、取り組み）（社会科）

- ・1人1冊、教科ノートとは別のノートを準備
- ・宿題プリント～図や表は切り貼り、問題文は手書きでノートに記入
～答えをノートに記入し提出
～定期テスト前等にノートを回収、チェック

「見る」「聞く」「読む」「書く」等の活動を毎回取り入れている。
（感覚の活用）

→評価材料になることはもちろんのこと、家庭学習で何に取り組んだら良いか分からない生徒にとって、取り組みやすい。ノートを見返したり、解き直したりすると定期テストや学力テストの勉強にもなる。

（視覚化）

○ ICT を活用し、視覚的に分かりやすい提示（理科）

- ・教科書を読んだり、板書を写したりする活動の後に、動画で本時の内容の確認を行う。
- ・動画を見ることでイメージしやすく、知識の定着を図りやすい。

期待される効果

- ・授業の見通しをもつことで、集中力が持続する。
- ・学級全体が落ち着いて学習することで、ざわざわする環境が苦手な生徒はもちろんのこと、学級全体が授業に集中して取り組むことができる。

課題に向き合い、取組を持続することが難しい

場面・教科

各教科

困難の背景として考えられること

- ・多動性、衝動性が強く、興味・関心のあることに気をとられてしまう。
- ・取り組むべき課題に興味をもてない時間がある。
- ・家庭や兄弟関係に不満を抱えている。

授業における指導方法
の工夫のポイント

- ① 場の構造化 ⑤ 時間の構造化 ⑥ 焦点化
⑨ 視覚化 ⑩ 感覚の活用 ⑪ 共有化
⑫ 学習方法の選択

○ 児童が学習方法や学習環境を選択
できる場の工夫

勉強をする場所や遊ぶ場所等の空間を分け、場所と活動をマッチングする工夫
(場の構造化)



興味を引くものや友だち等の視覚への刺激を避けた、座席配置の工夫
(場の構造化、共有化、学習方法の選択)

○ 児童が主体的に学ぶことができる学習課題の提示

ちょっとイヤでも頑張る！

1. 学習ドリル (10 ページ)
2. 教科書 (練習問題 2 番)
3. ルービックキューブ
(タブレットを見ながら)

個に合わせた学習のねらいや具体的な学習内容を提示して、活動に見通しをもたせる工夫
(時間の構造化、焦点化)

○ 個の課題解決を図るための効果的な
ICT活用

児童がより具体的に必要な情報をつかむことができるよう、ICTを用いた動画教材等の視覚的な情報を活用し、状況を整理しながら言語化する工夫
(視覚化、感覚の活用)

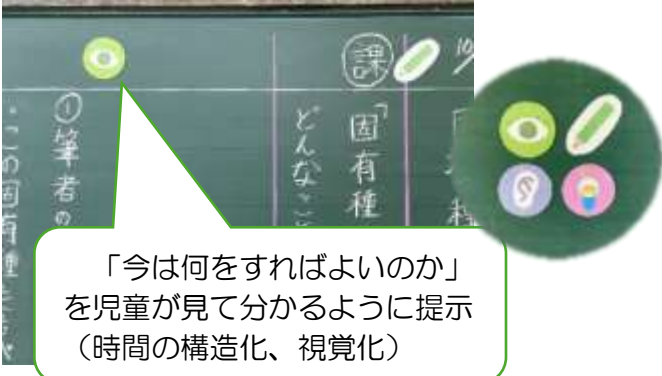
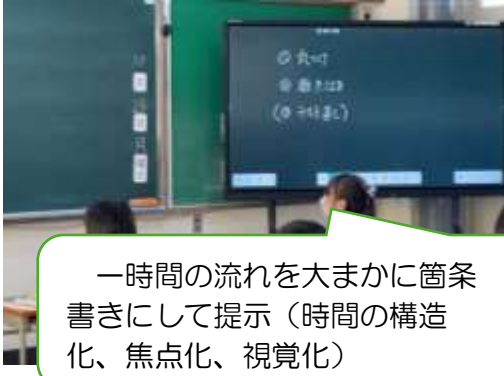
理科の学習



期待される効果

- ・落ち着いて課題に向き合い、短時間の取組を継続することで、自分の変容を実感し、意欲を高めていくことができる。

一斉指導の指示を聞き逃してしまうことが多い

場面・教科	各教科
困難の背景として考えられること ・集中力の持続が難しく、教師の話に注意を向けて聞くことができない。 ・言語理解に困難さを抱え、指示の内容を理解することが難しい。	
授業における指導方法 の工夫のポイント	⑤ 時間の構造化 ⑤ 焦点化 ⑧ スモールステップ化 ⑨ 視覚化 ⑪ 共有化
○ 「見る」「聞く」「書く」を視覚化 	○ 簡潔に見通しをもたせる 
○ ICTを活用し、視覚的にできる支援 	○ 注目させてから話す 
	○ ペアで確認→活動 
期待される効果 ・視覚的支援を多く取り入れ、児童が活動の内容やねらいを自分で確認することで、意欲的に学習活動に取り組むことができる。 ・指示を聞き逃すことの多い児童でも見通しをもてる環境をつくることで、全ての児童にとって分かりやすい授業づくりにつながる。	

取組事例⑥

注意を持続させることが困難で、教室に入れない

場面・教科

登校後の荷物整理、各教科

困難の背景として考えられること

- ・学習内容が分からない、興味がもてないと課題に取り組めない。
- ・聴覚の過敏さと衝動性があり、騒がしくなると教室を飛び出してしまう。

授業における指導方法 の工夫のポイント

- ① 場の構造化
- ② 刺激量の調整
- ③ ルールの明確化
- ⑤ 時間の構造化
- ⑨ 視覚化
- ⑫ 学習方法の選択

○ 朝の準備の手順を、写真と文字で 分かりやすく提示



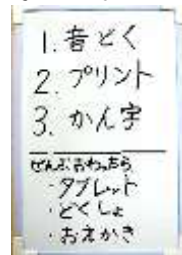
- ① ランドセルをおく
- ② つくえのなかに 入れる
- ③ ていしゅつ (れんらくちょう)
- ④ しまう (ランドセルをたなに)

児童が自立して取り組めるよう、視覚的に支援するとともに、言葉掛けを最小限にする。
(視覚化、ルールの明確化)

○ 本人が意欲的に取り組める課題 やスケジュールの示し方の工夫



※一日の流れ



※一時間の流れ

活動や余暇の内容を自分で選択できるようにする。
(視覚化、ルールの明確化、時間の構造化、学習方法の選択)

不安定になってしまったときに落ち着いて過ごせる場所を設定する。
(場の構造化、刺激量の調整)

○ 校内で安心して過ごせる場所を設定



校内で物陰にかくれてしまう



安心して過ごせる場所

○ イヤーマフを使い、刺激量を調節



イヤーマフの使用

期待される効果

- ・自分のスケジュールや活動の手順に見通しをもち、行動できるようになる。
- ・刺激量を調整することで、不安定になってしまってもクールダウンしてから学習に向かうことができるようになる。